



読字 原田 鏡

No. 776

2015/ 9/25

日中友好新聞

発行所

日本中国友好協会
〒110-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会
岡山支部

〒710-8256 岡山県岡山市東区3-8-30 511
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100 01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部

〒713-8511 倉敷市連島中央1-8-4 (宮地方)
TEL:FA3(086)446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.biz/>
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



9. 18 柳条湖事件 84 周年街頭宣伝

日中友好協会岡山支部 小林軍治

はじめに

9月18日、天満屋アリスの広場前で柳条湖事件(満州事変)84周年の横断幕と日本中国友好協会の旗を立てて街頭宣伝をしました。

参加者は、宇野支部長、曾田理事夫妻、井上、原監査、中国帰国者の山根、今岡さんと小生の計8人。

私たちは、これまで「日中不戦は憲法9条を生かす道」との立場で、この事件の宣伝をしてきました。それだけに、前日、安倍内閣が憲法違反で



ある「戦争法案」を参議院安保法制特別委員会で、大混乱の中強行採決したこと、抗議の意味も込めて集まりました。そして、柳条湖事件の内容と戦争責任を取らない日本政府「及び日本と中国、世界平和友好のために」などと書いたビラ200枚を配布しました。

関東軍の独走で

始まった中国侵略

宇野支部長と小生は、マイクをもって通行人や商店街の

人々に次のように訴えをしました。

今日は、84年前の1931年に奉天(現在の瀋陽)駐留の関東軍が「満鉄」の線路爆破事件を起こし、これを中国側の仕業に見せかけて、侵略戦争を始めた日です。

当初、日本政府は事態の拡大の声明を出しました。しかし、関東軍はそれを無視し北部満州のハルビンなど主要都市を占領し、32年にかいら「満州国」を作りあげました。その後、政府も関東軍の独走を容認する姿勢に転換しました。以降、関東軍は満蒙は日本の生命線「のスローガンのもとに37年7月7日に盧溝橋事件を起こし、日中全面戦争へと突入し、もはや軍部の独走をだれもとめられなくなりませんでした。

1945年8月15日のアジア・太平洋戦争敗戦まで、約15年間戦争を続けました。この侵略戦争で中国人をはじめアジアの人々約2000万

人、日本人約310万人の命が奪われました。9月18日は、中国では九一八(チンイーパー)と呼んで忘れられない日です。もちろん日本人にとつてもアジア・太平洋戦争とつづく「15年戦争」の発端となった日で、忘れてはならない日です。

歴史の教訓に学べ

安倍内閣は、中国への侵略戦争が開始された日の前日に「戦争法案」を特別委員会で強行採決しました。まさに歴史の教訓を省みない暴挙といわなければなりません。

参院の戦争法案審議のなかで、5月の段階で法案成立を前提に、自衛隊統幕監部が、米軍と一体となって法案の具体化を検討していることが内部文書で明らかにになりました。米軍指揮下の自衛隊の独走がほかの内部文書でも明らかになってきました。こうした事実、今日でも「軍が暴走」する危険があることを示しています。

おわりに

今回は、ビラの受け取りもよく、30分くらいで終了しました。例年通り横断幕を背景

に記念写真を撮るため、携帯電話を、ビラを受け取った2人の若者に渡し、おねがいしました。そのうちの一人が、中国吉林省から来て、現在専門学校で勉強していると聞いた。

私は、8月上旬に吉林省の延吉・図們を訪れたと話す。彼は「延吉は自分のふるさとである。私は朝鮮族でハンゲルも話せる」と嬉しそうに答えた。もう一人の若者が、学校

に帰って友人にもこのビラの内容を話したいといった。今後何かあったら連絡したいと電話番号の交換をした。ささやかな日中友好ができた。

その後「戦争法案」は、参院本会議でも強行採決され、可決成立しました。

私たちは、安倍政権をたおし、戦争法「廃案まで運動をつづける決意です。

映画鑑賞

日本のいちばん長い日」を観てきました。1967年版を観ていなかったのが、今回は観ておこうと思いました。

また、昭和天皇を本木雅弘が演じるというので、興味もありました。ストーリーはさとおき、特に腹立たしかったのが、陸軍の青年将校たちのセリフです。これはセリフですから、本当にそのように発言したかどうかはわかりませんが、2000万人の特攻をもつてすれば、アメリカに勝てます」と、役所広司演じる阿南惟幾(あなみこれちか・陸軍大臣)に、本土決戦を迫る場面が使われました。

また、ポツダム宣言を受諾する過程で、多くの人々が発言します。広島と長崎の原爆投下は語られますが、一言も沖繩戦には触れられることはありませんでした。そして、国体護持について、天皇は「大丈夫だとおもう」というセリフを言います。が、天皇の肉声(玉音放送)で、国民に通知するというのがなぜとられたのかは、不明です。この事実によって天皇の戦争責任は不問になったのでしょうか？

この愚かしさを実感するためにも一度観ておくのもよいかもしれません。

真田

開拓団の足跡を訪れる日中友好の旅③



図們中朝国境

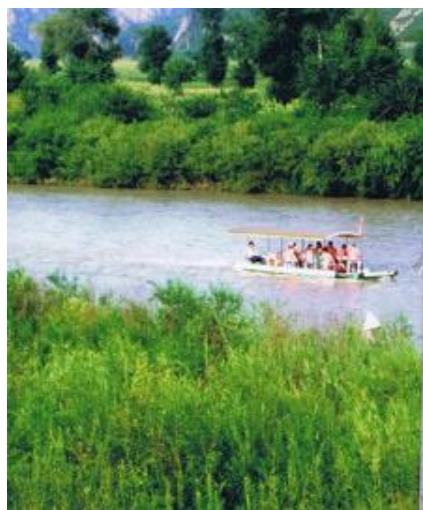
大橋を訪れて

8月8日の午後、中国と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との国境の町図們を訪ね、図們江大橋を参観しました。土曜日ということもあり中国側には、川を船で遊覧する人々も含め中国各地から多くの観光客が訪れていました。

望遠鏡で対岸の北朝鮮をながめると、人影はほとんどなく、金日成と金正日の肖像画が見えました。

私は橋の真ん中に立って、約40年前の勝山高校に勤めていたころ、韓国旅行で板門店から北朝鮮をながめた日を思い出しました。朝鮮半島が分断され、長い月日がたつています。一日も早い民族の悲願である祖国統一を願わずにはいられない。

その日は、延吉公園街の長白松賓館に泊まりました。翌朝、人民公園



で儒教の影響が強い、母子像、年長者の髪を解く像、子弟の像などを参観しました。

延吉に住む朝鮮族は、教育熱心で町のあちこちに「日本への留学」英語塾」の紹介などの看板が多くみられました。

最後に日本人として忘れてならないことがあります。この地区に朝鮮族が多い要因の一つに、戦前期の日本による朝鮮族の満州地区への強制移住があったことです。

映画「ソ満国境 15歳の夏」をみて

日本の敗戦近い夏、勤労働員で旧ソ満国境に送り込まれた15歳の新京一中の生徒たち。敗戦でとり残され、逃避行のなかで、小さな村の人々に助けられ、生きのびる。その一人が書いた実話の本（築地書館）をもとに、現在の15歳の中学生たちのくらしと交錯させながら話がすすんでいく。この手法が成功している。

「むかしこんなことがあった」で終わらず、現在に続く今の15歳の苦難に結びついていて、みる者に「自分のこと」として考えさせるのだ。

福島原発事故で除染作業のつづく地に生きる中学生たち。その放送部の元に、中国・東北部の小さな村から取材にきてほしい、と招待状が届く。昔、新京一中の生徒たちが助けられた地だ。

ガイド役の青年は、福島へ留学していたので、日本語で中学生たちの世話をしてくれる。

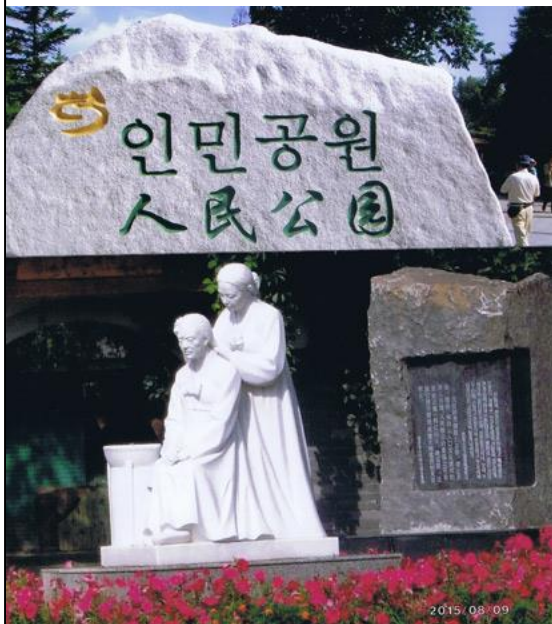
中学生たちは、昔の生徒たちの苦難を知っていくうちに、あんな時代に生まれなくて幸せだったな」と口にする。ガイドの青年はすぐ、本当に幸せですか？私は留学生だったから放射能を避けて中国へ帰ってきたが、あなたたちは逃げられない。不自由で不安な避難生活がつづいている」という。

本当の幸せとは、と観客も考える。この国はいまの15歳に

ゆるぎない幸せ」を保証しているだろうか、と。仮設住宅の人々を、買うなん億円の税金を、福島の人々のためにつかってほしい」と心から思った。

感動をいっぱいもらえる。監督・脚本、松島哲也のこの映画をおすすめします。

坪井あき子



中国現代史を学ぶ会

* 9月25日(金) 14:00~16:00

* 岡輝公民館

* 参加費 資料代程度

* 講師 青木康嘉さん



次回の新聞発送作業は10月1日(木)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

林田 内井 深井
小真 竹坪 三